

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392900082		
法人名	株式会社 ニーナム		
事業所名	グループホーム花音		
所在地	八代郡氷川町宮原588番地2		
自己評価作成日	令和6年10月6日	評価結果市町村受理日	令和6年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	令和6年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と尊厳のある生活を目標に、一人ずつその人らしさを引き出せるよう個別の関わりを大切にしています。今できることを見守りながら、出来ないことも、少しの援助で出来ることは、お手伝いして自身で出来る生活になるよう心掛けてケアを行っています。

ホームのすぐ前に神社があり、気候・体調をみて、利用者1人と職員1人といった形でお詣り・散歩を行っています。その散歩の帰りにお花の水やりをしたり、隣の棟に遊びに行ったり、ホーム内に閉じこもりつきりにならないように常に心掛けてケアを行っています。

地域のいきいきサロンも職員と共に入居者も参加するなど地域とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆとりのある居室やリビング、廊下に絵画や自宅にあるような家具が配置され、明るく温もりのある空間で利用者が過ごしています。面会制限などは実施されておらず、毎日の神社への散歩など、日常的に外部との交流があり、開かれた施設として本人・家族へのニーズに応えています。防災意識が高く、実際の避難方法計画や備蓄、他事業所との連携などにより、備えがなされており、とても安心できる環境です。介護計画からモニタリングまでのPDCAサイクルが多職種で正しく実践され、日々のケアの中でプライバシー保護や個別の排泄・入浴対応がなされています。理念と実践が伴った、利用者の思いに寄り添うケアが実践されているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営主体が変わったことで「理念」の改正を助言されたが、代表者が「今のまま」の理念を使いたいとのこと。	各ユニットには玄関や食堂など目につきやすい位置に理念が掲示されており、職員が各自確認できる状況となっている。	会議やミーティングなど定期的に職員全員で理念を確認する機会を持つなど、より共有を深める取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム花音は神社とお寺に囲まれ日常的に地域との繋がりを感じながら暮らしています。	新型コロナ禍の影響もあり、以前に比べると地域交流の機会は減少しているが、毎日の神社への散歩の際に挨拶を交わしたり、月に1度の地域サロンへの参加など、日常的な交流は保たれている。	道路に面した庭の花壇造りや定期イベント開催など、地域住民が来訪できる機会を増やす取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで一時お休みしていた「いきいきサロン」を本年度より再開し、地域との互助に努め、地域包括ケアシステムを目指します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場・包括支援センター・自治会長・民生委員と意見交換を行い、業務に活かしています。	定期的に開催されており、記録もなされている。参加者それぞれから報告や要望等があり、顔の見える交流の場となっているが、入居者家族は参加していない。	推進会議の意義や内容を伝えたいうえで、毎月参加を募るなど、家族代表者が参加し、意見・要望を聴取できるような取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは、必ず担当者様にお尋ねしています。	運営推進会議の際に地域包括支援センターや市役所職員との連携を図っている。また、法令や介護報酬などの疑問点は随時市の担当者に連絡を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は離設が時々見られたが、できる範囲で外出や散歩の機会を多くもつことで離設されることがなくなっている。	身体拘束の指針や廃止の理念を定め、年2回の委員会が開催されている。玄関がデイルームから遠いユニットは日中施錠あり。現在入居者に対し身体拘束は実施されていない。	離設の危険性に考慮しながら、可能な限り日中の玄関施錠を解除できるような取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、身体拘束廃止委員会を立ち上げ職員の勉強会も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者を支援している保佐人や福祉事務所の方に、制度や支援等に関する相談をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年の介護報酬改正の際、事前に改正のお知らせをした後に、同意署名を頂きましたが、中には利用料のアップを心配される方があり、電話等で詳しく説明いたしましたが、加算の理解は不十分ではなかったかと思われます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「認知症の方の思いを聞く、本人ミーティング」に県や行政、精神科、事業所含め、数名、ご利用者と共に参加し、本人の思いを語って頂き交流の機会を設けました。日頃から傾聴、受容の大切さを学び、ご利用者にも喜んで頂きました。	毎月の入居者の様子は家族に写真付きの書類を郵送している。新型コロナウイルスの影響により家族会がここ数年は行われていないが、今後再開予定。	定期的に入居者や家族アンケートで意見を吸い上げ、対応内容を報告書に掲載するなど、利用者や家族の意見が現場に反映され、フィードバックする仕組みを構築する努力が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、役員会議を開催した後、ユニット別の会議を開催し情報の共有に努めている。	社長や代表、現場主任など上層部での会議を月に1回実施し、現場の意見を吸い上げている。休暇取得や物品購入等、現場の意見が実際に反映されている。	個別職員への面談を実施するなど、より質の高い意見の吸い上げと反映が可能となる取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者・事務長と意見を交換することで職員が働きやすい環境に努めていきたいと思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型のブロック会の研修に参加するなど必要に応じて研修・勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一月に1回開催されているグループホーム勉強会・その他行政などが開催されている勉強会にも積極的参加しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望対応出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様・家族の要望に対応出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを希望通り出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係が出来るように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況や健康状態の変化があった場合には家族への報告を行っており信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気分転換を兼ねて、町内のドライブ・散歩を行っています。	近所の神社や公園へ日常的に散歩に行くことで、馴染みの関係ができています。時折入居者の自宅近くや馴染みの店までドライブするなど、馴染みの場への来訪機会が設けられている。	疎遠になりがちな家族や、遠方の友人などに対しては、オンラインツールを活用した交流の機会を提供するなど、馴染みの関係が維持できる取り組みが期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣の棟との交流が盛んで利用者同士の会話やカラオケを皆さんで楽しむ場面が多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るように努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちに寄り添えるように努めています。	趣味や職歴など、ケアマネージャーのアセスメントを参考にし、意思表示が困難な方の思いを汲み取ることが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報のサマリーシートを活用してスタッフ一同把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のほんの少しでもいつもと違う行動があれば、職員同士で情報を共有して、現状の把握をするように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に担当者を決めて、毎月のカンファレンス会議を開催している。また、家族への連絡や報告を密にして、現状の把握や課題の解決を図っている。	介護スタッフが2～3人の入居者を担当し、3ヶ月に1度のモニタリング表を作成し、それらを基にケアマネージャーが介護計画を作成するなど、チームでのモニタリング、プランニングが実施されている。	モニタリング作業を複数の書式で複数の職員が行うなど、重複している書類に関してはスリム化することで、よりモニタリングの質が高まるような取り組みが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア書式の改良やipadの導入により記録による情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民や区長等よりの情報を得ながら、神社やお寺の行事への参加、慰問に来て頂く等、地域の中での暮らしを楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るように努めています。	それぞれの入居者毎に、希望する主治医が担当し、訪問診療や通院など形態もそれぞれである。通院の際はご家族の付き添いが基本だが、職員が支援することもある。	担当者会議においても、主治医の意見を照会しておくなど、医療介護連携の反映された質の高い介護計画への取り組みが期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し医療連携体制の充実を図り、速やかな対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連絡・相談を行い、すぐに対応して頂くように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・訪問看護・経営者の意見を取り入れてカンファレンスで話し合い、家族様に説明納得して頂くように努めています。	直近1年間では1件の看取り実績がある。重度化指針が作成されており、主治医との連携により看取りが可能な体制が整っている。	重度化指針と併せて、事前確認書準備し、家族への説明と同意を得る事で、より質の高い看取りや重度化に対応することが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりいつ何時直ぐに対応出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時の避難先をグループホームの2Fへの垂直移動とし速やかな避難ができるように話し合っている。	災害対策委員会により、火災や地震、水害などを想定した避難計画が作成されている。年に2回の防災訓練、他事業所との連携協定締結、LINEによる連絡網など多彩な取り組みがなされている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け・言葉遣いなど日頃から注意してサービスを行っています。	入浴は必ず一人ずつ実施する、排泄の声掛けは小さな声で行う、苗字での呼称など、日々のケアの中で尊厳を守る取り組みが実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見を尊重し本様の希望に添えるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に添えるように出来る限り努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、食事作り(できる範囲で混ぜて頂くこと)や、片付けと一緒にして頂いている。	食事はその日担当した職員がその場で献立を考え、入居者からも見える位置での調理を行っている。定期的に家族との外食を楽しむ入居者もいる。	献立を一緒に考える、簡単な調理作業を任せるなど、日々の食事に入居者が参画できる仕組みや、季節を感じることでできる行事食などにより、食事を楽しむことのできる場を作る努力が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録を電子カルテを活用して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科による口腔衛生管理と指導を受け口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助を2時間置きに声掛けを行い出来る限りトイレで排泄して頂いています。	現在リハビリパンツの使用者が8割、布パンツの使用者が2割程度であり、テープ止めタイプのオムツ使用者はいない。失禁が多い入居者は1時間毎にトイレ誘導を行うなど、排泄パターンに応じたケアが提供されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診時主治医に助言を頂き・訪問看護と連携を取りながら対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望対応出来るように努めています。現状2日間1回は入浴行っています。	基本的には入居者毎に決まった曜日での週3回の入浴が計画されている。その日の気分や一番風呂の希望など、本人の意向や状態に合わせて臨機応変に対応している。	ゆず湯やしょうぶ湯などの季節が感じられる行事湯を取り入れたり、BGMを流すなど、より入浴を楽しむことのできるような取り組みが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の心身の状況に応じて仮眠のタイミング等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を「エビス薬局」にて一元管理して頂き、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意見を取り入れて出来るように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のスタッフの人数により出来る時とそうでない時もありますが、可能な限り出来るように努めています。	ほぼ毎日、午前中は近隣の神社への散歩が行われており、地域住民との交流の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフが施設の買い物など行ける時は一緒に同行してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があった時に本人と会話できるように関わっている。また、帰宅願望の強い方には安心を促すために家族に成り替わりスタッフが電話することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り居心地のいい空間で過ごしていただけるように努めています。	開放的な食堂や、幅に余裕のある廊下など、ゆとりを感じることができる空間となっている。また、廊下への絵画の展示、家庭的な家具の配置などにより、明るく温もりのある雰囲気である。	制作物を入居者と作成し、一緒に飾り付けるなど、より季節感があり、「自分の居場所」と感じられる空間づくりが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	目の前は神社や通りを通過する人や車を眺めて過ごすことが日課となっているご利用者が数名いらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り居心地のいい空間で過ごしていただけるように努めています。	各入居者の居室は整理整頓が行き届き、清潔が保たれている。また、昔の写真や家族の写真、家族からの手紙などを掲示することで、本人が安心することができる部屋になるよう配慮されている	愛着のある家具や調度品を持参してもらうなど、より「自分の部屋」と感じられるような居室づくりが期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表札を掲示してできる範囲で自力による移動ができるようにしている。		